

第 64 号



2018 年度 秋号

土木技術者女性の会 とは

<団体名>

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

<会の生い立ち>

土木学会誌(1982年9月号)紙上で企画された「女性土木技術者の座談会」がきっかけで1983年1月に発足しました。座談会の席上で、「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を…」ということになり、同誌紙上で呼びかけ、約30名でスタートしました。

創立以来、任意団体として活動してまいりましたが、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たに発足しました。

<会の目的>

土木学会誌の座談会をきっかけにしていますが、女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ対応していくために、独立した団体として活動しています。

女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次のような目的を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

<倫理規定>

当会では次のような倫理規定を定めています。

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規定を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

<会誌「輪(りん)」について>



1983年に開催された第1回総会にて、会誌の名前についても話し合いが行われています。

「輪」の文字は、「友達の輪」という発想より早々に決まりました。

そして、「りん」という言葉の響きの心地よさと会員同士のつながりを大事にしたいという思いを込めて名付けられました。

(1983年 第一回総会議事録・参加者証言抜粋)

目 次

- 
- 01 巻頭言 : 時弘みどり ～石の上にも 30 年～
- 02 特集★一般社団法人 土木技術者女性の会 第 6 回総会 開催報告
- 03 | 一般社団法人 土木技術者女性の会 第 6 回 総会報告
 - 05 | 西日本支部 presents “災害について考えよう”勉強会
 - 07 | 第 6 回総会 意見交換会
 - 08 | ★祝★ 正木啓子さん 土木学会名誉会員の称号を授与される
 - 09 | 参加者の感想
後藤佳子/森田麻友/井上結衣/西雪美樹/白川なを子/橋本美春/八尋 彩
- 16 一般社団法人 土木技術者女性の会 組織図 2018
- 17 新任運営委員の紹介
副会長(理事) 水野香織/事務局長 佐藤亜紀子/
中部支部長 青木治子/西日本支部長 深瀬尚子
- 19 運営委員 退任によせて
前事務局長 松本香澄
- 20 “見える化”土木技術者女性の会 第 4 弾:「総会開催」
「第 6 回総会」が開催されるまで
- 25 ちょっと一息 : おすすめ書籍 ～防災・減災編～
- 27 イベント報告(東日本支部)★リコチャレ 2018 ドボジョと土木現場体験!
「カントクさんになってみよう！」
- 29 連載 海外在住の会員からのメッセージ
私のイギリス PhD 生活 一学生生活編一/中尾晴子
- 32 お知らせ
- 32 | 【祝】土木広報大賞 2018 審査員賞受賞「Civil Engineer への扉 2017 年版」
 - 33 | 【ご案内】当会の各種フォーマット
 - 34 | 【注意喚起】倫理規程遵守のお願い
- 35 イベント・活動記録
- 28 | メディア掲載
 - 28 | サポーターおよび新規会員募集
 - 28 | 寄附制度のご案内
編集後記
- 

巻頭言

石の上にも 30 年

前副会長 時弘みどり

前副会長の時弘です。私が社会人になったのは 1988 年。1985 年に制定された男女雇用機会均等法(均等法)施行の 2 年後でした。職場には土木職の女性は他にはいませんでした。この均等法以前は就業規約などの給与規定においては、「男子社員：〇万円、女子社員：〇万円」と明記することができ、明らかな待遇の差が容認されていました。しかし、この法律により、それができなくなりました。そこで登場したのが、コース別の採用です。すべての男性社員は「総合職」、ほとんどの女性社員は「一般職」と振り分け、それまでと同様に待遇の差を付けたのです。



1988 年、建設業はバブル景気の前でした。その後に訪れたバブルに沸く好景気の中で建設業のイメージアップが唱えられ、同時に土木職の女性の採用も加速し、私の後には毎年複数の女性が入社するようになりました。しかし、バブル崩壊と同時にその動きもほぼ途絶えていました。

現在、再び、政府の旗振りのもと、女性の活躍推進がしきりに叫ばれ、建設業においても各社が競って、その動きを推し進めています。私が所属する企業も、毎年 7、8 人の土木職の女性を採用しています。育児休業や時短勤務など、女性が働きやすい環境を整える制度も徐々に整えられています。そして、ついに、土木職だけに限っても女性管理職の人数が 10 人になりました。私自身は 50 歳まで 1 年を残すこととなった 2015 年 4 月に管理職になりました。私が入社した 1988 年頃には、自分が管理職になるとは想像すらできませんでした。

1988 年当時は、建設業はまだまだ不景気の時代でした。その頃、父にこう言われました。「一生景気が良い会社はないからな。入る時に景気が悪い業界は、いつかは良くなる」

今思い返すと、移り変わるのは景気だけではありませんでした。入社して 30 年の長い間には、会社に行きたくなくなった時期もあります。「もう辞めよう」と思ったことも何度もあります。それでも、気がつくと入社して 30 年が経ち、周りには若い技術系の女性がたくさんいて、建築や文系では女性の部長もいる、そんな世の中になっていました。

「石の上にも 3 年」ならぬ、「石の上にも 30 年」です。辞めるというのは「積極的な」選択であり、辞めないというのは「消極的な」選択だと思えます。それでも、その時々で私がしてきた選択の結果です。振り返ると悪いことばかりではありませんでした。

1988 年は元号で数えれば昭和 63 年です。私は昭和最後の入社になりました。この 30 年の間に、昭和が終わり、平成も間もなく幕を閉じようとしています。私は、本年度の総会にて、次の副会長にバトンを渡しましたが、来るべき新しい時代においても、当会が「未来のどぼじょ」も「若いどぼじょ」も「おばちゃんのだぼじょ」もみんなが活躍できる世の中のために貢献できる存在であることを祈念しています。

特集

一般社団法人 土木技術者女性の会 第6回総会 開催報告

担当：西日本支部

日にち：2018年9月7日(金)・8日(土)

2018.09.07 14:30-17:30

勉強会

「西日本支部 presents “災害について考えよう”勉強会」

エル・おおさか 10階「松」・・・p.5

2018.09.07 18:30-21:00

意見交換会 創作鉄板ダイニング M831・・・p.7

2018.09.08 09:00-11:30

一般社団法人 土木技術者女性の会 第6回総会

西松建設(株)西日本支社 1階大会議室・・・p.3

～総会終了後、運営委員会を開催～

2018.09.08 11:30-12:00

★祝★ 正木啓子さん

土木学会名誉会員の称号を授与される・・・p.8

参加者の感想・・・p.9

一般社団法人土木技術者女性の会 第6回 総会報告

日時:2018年9月8日(土) 9:00 - 11:30 場所:西松建設(株)西日本支社 1階大会議室
参加者:49名 委任状提出者:73名 計122名(当日時点での会員数338名)



【渡辺会長の挨拶】

一般社団法人となってから、6回目の総会が開催されました。今年は、当初予定していた6月の総会が大阪府北部地震の発生により、延期となっていました(開催までの流れは、p.20参照)。

はじめに渡辺弘子会長より、2018年1月から9月までに発生した多数の自然災害を振り返り、「土木屋の出番である一方で、働き方改革と相反する部分があるのも事実。これまでも女性は仕事と家事や子育て等を両立してきたので、そのノウハウを活かしていきましょう」との挨拶がありました。



【総会の様子】

その後、議長からの総会成立の宣言があり、報告事項および議案審議に入りました。

まず、渡辺会長より、昨年開催の第5回総会における申し送り事項として、昨年の活発な議論に対するその後の対応が報告されました。続いて、渡辺会長および時弘副会長より、2017年度の事業報告と2018年の活動計画が報告されました。

2017年度の事業報告では、2018年度理事選挙の結果として、東日本支部 渡辺弘子氏、中部支部 水野香織氏、西日本支部 牛山育子氏が理事に承認されたことが報告されました。また、企画広報局より、会員用名刺データおよびサポーターマークの作成報告と積極的な活用提案がありました。さらに、各支部における現場見学会や勉強会等の充実した活動内容も報告されました。

2018年度の活動計画として、会費検討WGより中間報告がありました。今後ますます活発化することが期待される会の活動を支える財政基盤を強固にする検討がさらに必要となるため、WGの延長が議案として提出され、可決されました。

東日本支部からは、会員数が増えており、喜ばしいことではあるが、支部エリアとして関東以北の本州全域のため、関東中心となる支部活動に遠方の会員が参加しにくいとの意見が上がっていました。そこで、東日本支部における東北地区の設置が議案として提出され、可決されました。

議事次第と質疑応答につきましては、次ページをご参照ください。



議事次第

開会

I はじめに

- 1 会長挨拶(渡辺弘子)
- 2 議長選出(事務局スタッフ 小川由布子)
- 3 総会成立の宣言

II 報告事項及び議案審議

- 第 1 号報告 第 5 回総会における申し送り事項(渡辺会長から説明)
- 第 1 号議案 2018 年度 理事選挙について(選挙管理委員会委員長から説明)
- 第 2 号議案 2017 年度 事業報告(渡辺会長、時弘副会長から説明)
- 第 3 号議案 2017 年度 決算報告(齋藤会計から説明)
- 第 4 号議案 ワーキンググループの設置について(案)(須田会費検討 WG リーダーから説明)
- 第 5 号議案 運営委員及び会計監査委員の選任について(案)(渡辺会長から説明)
- 第 6 号議案 2018 年度 事業計画(案)(渡辺会長、時弘副会長から説明)
- 第 7 号議案 2018 年度 予算計画(案)(齋藤会計から報告)
- 第 8 号議案 個人情報取扱規程について(時弘副会長から説明)

次回・次々回の担当支部確認

次回の総会(2019 年度)は東日本支部が担当であることを確認した。また、次々回の総会(2020 年度)は北海道支部であることを確認した。

閉会



質疑応答

質疑応答は特にありませんでした。

総会の議事録は、当会ウェブサイト<会員ページ>に掲載済みです。

報告:鈴木由美(西日本支部)

西日本支部 presents “災害について考えよう”勉強会

日時: 2018年9月7日(金) 14:30 - 17:30

参加者: 29名

皆さんは「自然災害」と聞いて何を考えますか。一言に「自然災害」といっても、土砂災害、津波災害、地震災害など、さまざまな種類があります。では、自然災害に対して、皆さんは日常的にどのような対策をとっていますか。

日本はいわずと知れた「災害大国」です。そのため、日本で生活する限り、日常的に災害を考えることは重要です。しかし、実際に考えている人はどれくらいいるのでしょうか。

総会前日の9月7日に、エル・おおさかにおいて、『西日本支部 presents “災害について考えよう”勉強会』が開催されました。「災害とは何か」「災害から身を守るにはどうしたら良いか」を考える機会がありましたので、当日の様子を報告します。

今回の勉強会は、時弘副会長の開会あいさつからはじまり、恒成美裕己さん(福岡県)と西川友章さん((公社)砂防学会)、お二方にご講演いただきました。

当会の会員でもある恒成さんからは「平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害の対応について」と題して講演いただきました。講演冒頭、災害発生直後に被災地域上空から撮影した動画が流れました。災害発生当時、ニュースや新聞など各メディアでたくさんの報道がありましたが、メディアの報道では見たことのない、とても衝撃的な映像ばかりでした。九州北部豪雨災害の特徴として、被災地域が広域だったことが挙げられます。この原因として以下のことが挙げられるそうです。

- ・ 短時間に記録的豪雨を観測(朝倉市の7月平均月間雨量の2倍雨量をわずか9時間で超過)
- ・ 多数の土砂災害が発生し、大量の流木と土砂が流出
- ・ 堤防決壊、河川氾濫



【恒成さんと参加者の質疑応答】

特に、土砂災害は管内で大小あわせ 20 か所以上で発生したとのことでした。

被災直後の初動としては、福岡県が主導し、被災調査と同時並行で地元の建設業者 42 社と共に休む間もなく緊急対策工事を進めたそうです。緊急対策工事に従事された職人さんたちが、昼休憩もそこに工事を進め、最後にはエネルギードリンクで乾杯をした、というエピソードが非常に印象的でした。

この災害後、福岡県では防災に対してハードだけでなく、ソフトの取組みにも着手したそうです。例えば、河川の近くに監視カメラや水位計を設置し、それら

から得られた情報を市民へ提供するといったものです。豪雨などの際には、これらの情報を避難の判断材料とすることが可能です。

引き続き、西川さんからは、「土砂災害への警戒・避難対策 ～その現状と課題～」と題して講演いただきました。西川さんは、砂防技術者として、近年発生しているほぼすべての土砂災害現場へ足を運び、調査等へ参加しているとのことでした。講演の中に、これまでの土砂災害調査を通じて、災害の再発を防止するためには、ハードとソフトの両面から総合的に対策を進めることが重要とありました。具体

的には、住宅等への甚大な被害を生じる可能性のある溪流を抽出し、迅速・優先的に対策を講じるための技術開発と施策／豪雨などの情報を住民に的確に伝え、また住民自らが身を守る行動を確実にを行うための技術開発と施策を挙げられています。

西川さんの講演の途中には、「避難」に関するグループディスカッションを行いました。

<テーマ1> 誰に指示されたら避難するか

- ・ 近所の住人、家族、自治体
 - ・ 地域の自治会など近くの状況がわかっている人
 - ・ 自宅周辺に危険要素が少なく、そもそも避難しない
 - ・ 陸の孤島に住んでいる、陸の孤島になってしまったら避難しない
 - ・ 避難指示がエリアメールであったが、避難しなかった
- ✓ 自治体や近隣住民など、周辺の状況がよくわかっている人(同じ状況に置かれている人)の指示に従うといった意見が多いようでした。



【西川さんのご講演】



【グループディスカッションの発表】

<テーマ2> 降雨の前に避難を決断するためにはどのような情報が欲しいか

- ・ 避難先の物資等の情報、家にいるよりも快適に過ごせることが可能か
 - ・ 降雨が続いた場合にはどのようになるのか等、具体的な情報
 - ・ 周囲の方が避難するか、一人では避難しない
 - ・ 県のホームページを利用し、情報を収集している
 - ・ 避難の指標となる用語も多数あり(例えば、避難準備／避難勧告／避難命令)、本当に必要なタイミングがわかりにくい
- ✓ 避難先での過ごし方に“苦痛”というイメージを持っている人が多く、避難先の情報を求める人が多くいました。

<テーマ3> 非常時にどのような取り組みをしておけば良いか

- ・ 地域密着型の支援
 - ・ これまで考えたことがなかった、この先考えたい
- ✓ 1つ目のテーマへの意見にもあったように、広範囲を対象とする情報よりも地域コミュニティの構築といった意見が多くありました。

自然災害は場所やタイミングを選ばず、私たちに襲い掛かってきます。今回の勉強会に参加し、想定外を未然に防止するには、まずは身近なところをよく知ることが大切と思いました。どのような場所に住んでいるのか、周囲にどのような危険要因(海、河川、沼地、高層ビルなど)があるか、昔はどのような土地だったのか、避難場所はどこか、避難場所までの道のりにどのような危険があるか、避難場所の収容人数、ご近所さんはどのような人か……。ぱっと考えただけでも、今自分が置かれている環境につ



いて知らないことがたくさんあります。

これらに加え、私たち土木技術者の場合は、災害を防ぐ、災害から守る、災害から復興する、といった「人の命を守る」役目も担っています。勉強会やその直

前に全国で発生した自然災害を目の当たりにし、自然が持つエネルギーの威力を感じるとともに、そのエネルギーとうまく共存するにはどうしたら良いか、土木技術をもって何ができるのか、日本で生活していくうえで永遠のテーマである「防災」へ挑戦し続けることの重要性を再認識することができました。

最後となりましたが、基調講演をいただいた恒成美裕己さん、西川友章さんに感謝するとともに、忙しい中、このような勉強会を開催していただいた西日本支部の皆さんに御礼申し上げます。

報告：笹岡里衣(東日本支部)

第6回総会 意見交換会

日時：2018年9月7日(金) 18:30 - 21:00 場所：創作鉄板ダイニング M831

参加者：38名

勉強会終了後、意見交換会が行われ、38名の方が参加されました。時弘副会長より挨拶があり、会がスタートしました。中盤には、自己紹介がありました。一人1分という持ち時間でしたが、仕事のこと、趣味のこと、近況などを発表していただき、直接話せなかった参加者のことも知ることができました。

最後に、西日本支部の古谷支部長より挨拶があり、意見交換会は終了しました。その場で終電近くまで2次会が開催され、盛り上がりすぎて喉が痛くなった方もいらっしゃったとか。会場は野菜を中心とした創作料理のお店で、落ち着いた雰囲気なうえ、お料理もおいしく、こちらの点でも大満足でした。

私自身、はじめての参加で始まる前は緊張していましたが、さまざまな業種、立場の方とお話することで刺激になったとともに、もっと早くに会に入会し、会員の方々との交流の場に参加しておけば良かったと思いました。準備してくださった皆さま、参加された皆さま、楽しい時間をありがとうございました。



報告：長 千佳(西日本支部)

★祝★ 正木啓子さん 土木学会名誉会員の称号を授与される

日時:2018年9月8日(土) 11:30 - 12:00

当会の会員であり、第2代会長(1994～1998年度)の正木啓子さんに、土木学会名誉会員[※]の称号が授与されました。長年にわたる(公社)土木学会での功績に加え、特に「女性土木技術者として、土木技術者女性の会の創設活動への協力を行った」ことが認められたものです。



総会后、有志からの花束贈呈
左:牛山副会長、右:正木さん

正木さんの経歴:

- ・19××年11月18日「土木の日」に誕生。
- ・神戸大学大学院(土木工学専攻)卒業後、34年にわたり大阪府庁で土木職として勤務。
- ・はじめてづくしと言われている主な経歴は下記のとおり。

- ★ 国立土木工学科女子卒業生 第1号
- ★ 大阪府庁女性土木職 第1号
- ★ 地方公務員土木職 第1号
- ★ 土木学会女性理事 第1号
- ★ 大阪府道路公社女性理事長 第1号

※土木学会名誉会員

10年以上フェロー会員であり、土木学会の発展に対する貢献が特に顕著な会員に贈られる称号です。

正木さんは2005～2006年度に土木学会理事を務められました。

総会后、(徹夜明けの)牛山育子副会長から正木さんの経歴紹介(下記に抜粋した一部を掲載)、有志からの花束贈呈が行われました。

正木さんのコメント:

まずは牛山さん、夜間の水防、本当におつかれさまでした。私も同じ仕事をしていたので、帰ることができない時の大変さが身に染みしています。

改めまして、お祝いのお言葉や大変なご紹介をいただきありがとうございました。当会の会員は全国で活躍し、さまざまな機会や場所で一緒になることも多くあります。ぜひ、その良い環境を生かし皆さんも活動を楽しんでください。

本当にありがとうございました。

渡辺弘子会長のコメント:

(一社)土木技術者女性の会といたしましては、当会の会長経験者が土木学会名誉会員の称号を受けたこと、また、受賞理由が当会の創設に関わる活動とされたことについて、大変に光栄に感じております。これからも会として女性技術者を支援しつつ、土木界の発展に寄与するとともに、偉大な諸先輩に続き、土木の志を次世代へ伝えていきたいと思っております。

報告:藤代祥子(中部支部)

参加者の感想



楽しかったはじめての総会 後藤佳子(東日本支部)

はじめに、総会に携わられた皆さまに感謝申し上げます。大阪府北部地震による開催延期、台風 21 号による被災と総会開催には多大なご苦労があったかと思います。そのなかで、総会に参加できたことは、携わられた皆さまのおかげです。ありがとうございます。

社会人になってから 10 年目の昨年度、土木技術者女性の会に入会いたしました。今まで土木技術者女性の会のイベントに参加したことのないなかではじめての総会参加に、右も左もわからなく、不安と緊張を感じながら会場へと向かいました。

○ “災害について考えよう” 勉強会

部屋に入った時は、「とりあえず、勉強会開始までどう過ごそう」ともやもや考えていました。そんな私に皆さまからお声をかけていただき、ホッといたしました。勉強会のテーマは、“災害について考えよう”。お話を伺い、もっと改善した方が良いことがたくさんあり、現状に満足してはいけなと感じました。

○ 意見交換会

勉強会終了後に意見交換会が始まる頃には、不安と緊張はなくなっていました。仕事の話だけでなく、家庭の話、大阪土産の話までたくさん意見交換をし、楽しい時間を過ごすことができました。教えていただいたお土産を買って帰ったところ、好評でした。一次会という限られた時間のなかではお話しできなかった方もいらっしゃったので、今度は二次会まで参加したいです。

○ 総会

前日のイベントにて、会の雰囲気にも少し慣れてきたなかで迎えた総会でした。総会開始前は和やかな雰囲気でしたが、総会開始後はピリッとした雰囲気になり、真摯に取り組む姿勢が伝わってきました。オンとオフの切り替えをされている様子を見て、自分も見習いたいと思いました。また、総会の席はくじ引きで決めたのですが、普段お会いすることができないような大先輩のお席の隣に座ることができ、なんてラッキーなのだろう、とつい総会の時間を楽しませていただきました。

普段の業務では、所内にこもりつきりになってしまうことが多いため、総会に参加し皆さまとお話でき、楽しかったです。今後も多くのイベントに参加し、たくさんお話しできると嬉しいです。

最後に、開催場所が大阪でしたので、意見交換会や移動時間の合間に美味しいものをたくさんいただきました。しかし、私は食べることに夢中になってしまい、写真を撮ろうと思う時には食べ終わっていることがほとんどです。今回もいつもと同じように、写真が撮れなかったことが非常に残念です。次回は、気を付けます。



はじめての総会 森田麻友（東日本支部）

私は昨年の秋頃に入会し、現在は東日本支部のスタッフに就いています。参加のきっかけは、小林支部長方から、自分自身の経験のためにも来年は東日本支部で総会が行われることを見越して総会に参加してみても、とお誘いいただいたことです。大阪府北部地震の影響で6月に予定していた総会が9月に延期となり、心待ちにしていた総会にようやく参加することができました。総会運営に携わられたすべての皆さまに感謝申し上げます。

私は総会前日に開催された意見交換会から参加しました。くじ引きで決定した座席へ緊張しながら向かいました。同じテーブルや周りの席の方の多くは、はじめてお会いした方でしたが、すぐに緊張もほぐれて楽しくお話しすることができました。テーブル内では、『“災害について考えよう”勉強会』が話題に上り、非常にためになった、という意見が出ていました。今年は災害が日本各地で発生し、私の出身地である広島県でも多くの被害がありました。幸いにも私の家族や親戚、友人に大きな被害を受けた人はいませんでした。報道での映像や被害を受けた地域に住んでいる友人からの体験談を聞き、「災害は他人ごとではない」と強く感じるようになっていました。以前にも増して災害について関心があったものの、聞き逃してしまったことに残念な気持ちとなりましたが、機会があれば次こそは参加したい、と思っています。また、それぞれの支部内での活動について意見交換できたことも参考になりました。今まで他支部の方とお話しする機会が少なかったので、良い情報交換の場になったと思います。チャンスがあれば、他の支部のイベントにもぜひ参加したいと思います。

総会では、前日のにぎやかな雰囲気から一転して、真剣な場となりました。現在の会の運営についてだけでなく、世の中の状況や変化を把握しながら将来に向けての取組みを行っていると感じました。社内では経営層や担当部門が熟考した決定事項を受け取るのみですが、今回の総会で決定までの過程の一部を感じる事ができた気がします。良い経験、良い勉強になりました。

総会終了後は、総会行事で最もお話しをさせていただいた方と一緒に、4人でランチへ行きました。仕事、プライベート問わずゆっくりと話ができ、最後の最後まで楽しい時間を過ごせました。

今回の総会と意見交換会を通じて、改めて自身が狭い世界にいると実感しました。総会で出会った方々は、「土木」というつながりはあるものの、さまざまな職種や経験、趣味をお持ちの方がいらっしゃいました。会での新しい人との出会いにより、土木、建設、他業界など視野を広げで多くの人の話を聞いてみたいと感じるようになりました。

来年の総会でも、皆さまと多くのお話をしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



はじめて勉強会・総会に参加しました。

井上結衣（中部支部）

今年はじめに入会させていただき、勉強会・総会ともにはじめての参加となりました。緊張もありましたが、たくさんの方とお話することができ、楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。

○勉強会

今年は西日本を中心に、数多くの自然災害が発生しており、災害を身近に感じていたため、大変勉強になりました。写真のほか、空中からの動画を交えた解説が印象に残りました。動画からは、当時の現場の雰囲気や緊迫した状況が感じられました。

また、土砂災害については、土砂災害の分類など、基本的な所からはじまり、その後の解説も非常に理解しやすかったです。課題形式だったため、自分自身が災害に直面した時、何を考え、どのように行動すべきか具体的に考えられました。

意見交換会では、野菜の美味しいおしゃれな料理をいただきました。お好み焼きもおしゃれでした。性格上、自分から話にいけるか、と不安もありましたが、多くの方からお声をかけていただけたので、リラックスして楽しく過ごすことができました。

○総会

私の経験不足ではありますが、総会というものの自体にあまりイメージを持っていなかったため、総会とはどのようなものなのかを知ること、に重きを置いて参加させていただきました。

総会では、多くの議論が交わされており、議題を通して、会そのものについても理解することができたと思います。入会してまだ間もないですが、このタイミングで総会に参加させていただけて良かったと感じました。

その中で、開催されたイベントについての議題の際に、会全体、あるいは各支部で楽しそうなイベントが開催されていることを知りました。特に、現場見学会に大変興味を持ったため、開催される際にはぜひ参加したいと思っております。

今後も開催されるイベントを通して、さらにいろいろなことを学ばせていただき、たくさんの方とお話できたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



入会して5年、会への思い 西雪美樹（中部支部）

思い起こせば4年前、私をはじめて参加した総会が西日本支部(大阪)開催でした。私の勤務している会社では、土木職の女性の先輩が1名しかいないので、はじめて総会に参加した時は衝撃を受けました。「ドボジョってこんなにたくさんいるんだ！ ベテラン、バリキャリの方々もたくさん！ 自分の知っている範囲内に女性土木技術者が少ないからって、ロールモデルが少ないと嘆いていたけれど、井の中の蛙だった私！」と。そして、皆さんが真剣かついきいきと当会に関わっていることが印象的でした。総会の後には土木学会出版『継続は力なり 女性土木技術者のためのキャリアガイド』の書籍を購入し、キャリア紹介で執筆された正木さん、渡辺会長のサイン会に長蛇の列ができていました。その時はじめてお二人の存在を知ったのですが(←ごめんなさい)、女性土木技術者の礎を築いてくださった方からのありがたいサインをいただいて、自分が今後土木の道を歩み続けるためのお守りを得た気持ちでした。

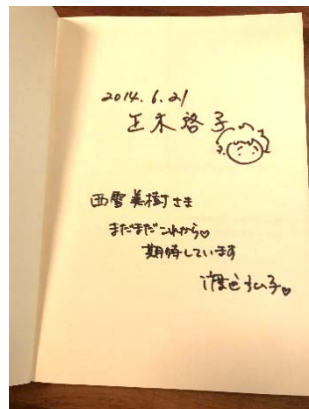
あれから月日が経ち、4年ぶりに西日本支部開催の総会に参加させていただきました。建設分野での女性活躍推進の気運は一層高まっています。総会会場へ向かう道中の工事現場には「私たちはけんせつ小町を応援しています」という大きな看板が掲げられていました。

中部支部の皆さんは、お互い励ましあったり、顔を合わせると安心したりするような存在になっています。輪やFacebookで拝見し、勝手に身近に感じている全国の会員の皆さんとは、年に1度の総会でお会いできて、活力をいただくとともに、会の今後について真摯に考えてくださり、ご尽力いただいていることを再認識しました。はじめて参加された方も多くいらっしやう、新しい出会いも嬉しかったです。また、正木さんが土木学会名誉会員の称号を授与されたことを記念して、牛山副会長が台風対応による徹夜勤務明けにもかかわらず、駆けつけてくださり、正木さんの経歴をご紹介くださいました。その師弟間の絆、有志の方々からの花束、参加者全員からの温かい拍手にもとても感動しました。

土木技術者女性の会に入会しておよそ5年ですが、会を通じて多くの尊敬できる先輩・同志に出会っているなあ、と感じた総会になりました。

心残りなのは、1泊2日で勉強会からのフルコース参加ができなかったことです。意見交換会に参加された方から楽しかった様子を伺い、参加できなかったことに悔しさを感じました。来年は、ぜひ1泊2日で参加したいです。総会前夜に楽しめなかった代わりに、総会後のランチでは梅田でちょっとリッチに、おいしいお肉を食べ、女子トークに花を咲かせ、とても楽しい時間が過ごせました。

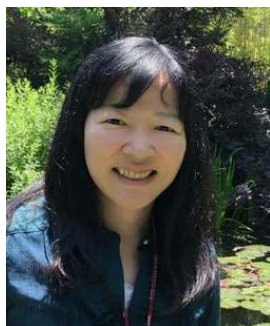
末筆になりましたが、勉強会・総会を準備してくださった西日本支部、運営委員会の皆さま、ありがとうございました。



土木技術者を継続するためのお守り
(第2回総会でいただいたサインです)



総会後の女子会ランチで食べた熟成肉



たくさんの思い出が残った会 白川なを子（西日本支部）

当初6月に開催予定であった総会。大阪府北部地震により9月に延期に。今から思えば、今年、未曾有に頻発している災害の幕開け的な災害でした。そして9月、またしても、総会の数日前に、巨大な台風21号が大阪を直撃。またも延期かと危惧していたものの、西日本支部のご担当者様のご努力のおかげで、無事開催されました。誌面を借りまして、お礼を申し上げます。また、被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、上記理由により、待ちに待って、さらに待ちに待った、はじめての総会および関連行事への参加。1日目は災害についての勉強会。会場に入ると、女女女。こんな大勢の女性ばかりに囲まれるのは一体何年ぶりだろうか？ 中学以来くらい？ 懐かしさも慣れない雰囲気戸惑いを感じてるうちに、気づけばポツン！！ 普段、講習会では、男男ポツンが、今日は、女女ポツン！！ こりやいつも以上にきつい。周りを見渡すと、すでに輪ができあがっており、そこに入れるほどの社交性も勇気もない私。ただただ、勉強会が始まるのを願っていたチキンな私でした。

勉強会では、九州北部豪雨災害を事例とし、豪雨災害の特徴や被害の概要、被災後の取組等について学びました。私の住む香川県は、全国的にも雨が少なく、どちらかと言えば、湯水への意識が強く、豪雨災害はあまりピンとこないのが正直なところでした。勉強会では、なかなかテレビでも拝見できない災害状況を紹介いただき、今後は一層、雨量への意識を高め業務を行わなければならないという思いにかられました。

勉強会後の意見交換会では、ポツン返上！ たくさんの方々とお話しすることができ、とても楽しくも有意義な時間を過ごせました。

特に、興味深かったのが、やはり、皆さんの仕事について。独立してバリバリと働いている方や、可愛い女性でも、容赦なく大変な現場についているという話。私の周りには土木を辞めてしまった人がほとんどのため、どこか最近の女性活躍を持ち上げる風潮に冷めた目で見いていたのですが、間違いでした！

パワフルな女性達に、圧倒されましたが、同じドボジョ脳でなされる会話はなかなか他では味わえません！ まだ会に参加されたことのない方は、ぜひ一度ご参加を！

最後に、今回一番驚いたのは、若い女性達が、ほんとうに気遣いがあり、堂々としてしっかり人前で話ができていること。アラフォーにもなって、それができてない自分が恥ずかしい！ わたしももう少し積極的に大勢の前で話せる人間になりたいと思わせてくれた会でした。



総会の帰りに食べたお好み焼き



はじめての総会参加 橋本美春（西日本支部）

現在担当している現場が、台風の影響で工程が1日遅れてしまい、9月7日の早朝に場所打ち杭の掘削機搬入してからの総会参加になりました。徳島からの高速バスの揺れが眠りを誘ってくれて熟睡してしまい、大阪が大変近くに感じました。

会場に着くと、はじめての私に多くの方に、声を掛けていただき、緊張が和らぎました。

○勉強会

今年は、台風が多く7月の西日本豪雨と自然災害が発生し、私自身も災害について、考えさせられることが多い年になっています。

講演では九州北部豪雨、土砂災害について貴重な講演を拝聴できました。私の自宅は、大雨が降ると、前の市道が冠水し陸の孤島となります。自治体からは避難指示が出されますが避難したことがなく、「大丈夫だろう」とただなんとなく高を括っている自分がいて、もう一度考え直す必要があると思いました。

○ドキドキの意見交換会

はじめての参加で、自分で言うのもなんですが人見知りです。くじ引きで着席し、私から話しかけることができませんでしたが、皆さんに声をかけていただき、楽しく過ごすことができました。最後まで参加してたくさんの方と知り合いになることができ、また、徳島では女性技術者が周りにおらず、貴重な話もできて、とても楽しい時間となりました。

○緊張気味の総会

緊張して総会の会場に入りました。総会がはじまると、議題について、白熱した議論がされていました。自分の不甲斐なさに反省しきりです。

2日間参加して、皆さんに刺激とパワーをいただきました。土木のあらゆる分野で活躍されている方とお会いできて、女性のパワフルな面を感じました。

現在、国土交通省発注の橋梁下部工事の現場代理人です。毎日できあがっていく現場を見ていると楽しくてしょうがありません。皆さんにいただいたパワーでがんばりたいと思います。

これから、いろいろな行事に参加していきたいと思います。よろしくお願いいたします。



ドキドキしたはじめての総会 in 大阪

八尋 彩（西日本支部）

この春から社会人となり、仕事だけでなく生活のすべてが目新しく、毎日が楽しくも忙しい日々のなかでの総会参加となりました。今年の春に入会し、今回がはじめての総会参加となり大変緊張しましたが、開催地の大阪は私の出身地であり、久しぶりに地元へ帰省する機会ともなり、心身共にリフレッシュすることができました。

今年は、当初予定されていた6月には大阪の北部で地震が発生し、開催された9月も台風の影響や北海道で地震が起こり、関西だけでなく日本中で大きな災害が起こりました。勉強会当日に大阪へ帰り、まず目に入ってきたのはなぎ倒された街路樹や90°に曲がった信号機などでした。このような大変な状況のなか、総会だけでなく前日の勉強会からたくさんの方々が全国から集まり、お話しさせていただき徐々に緊張も解けていきました。また、現在四国支店配属となり徳島に在住していますが、同じ四国にいる女性技術者の方々も総会に参加しており、お話しさせていただく機会となり、すごく嬉しく、心強く感じました。

○勉強会

総会前日に開催された『“災害について考えよう”勉強会』では、同時期に台風や地震などの災害が起きていたため、大変感慨深いものとなりました。土砂災害の特徴からソフト対策やハード対策に関する、土砂災害について丁寧に説明していただき、大変勉強になりました。しかし、同時に、私の住んできた地域が土砂災害の警戒区域などの心配がないため、現実味がなく、今まで土砂災害について深刻に考えてきたことがなかったことに気づかされました。土木技術者として土砂災害だけでなく、さまざまな災害に関する知識を増やしていかなければならないと再度思うきっかけともなりました。

○意見交換会

意見交換会では、勉強会の時は話せなかった方々とお話させていただく機会があったり、皆さんの前で自己紹介をさせていただいたり、大変緊張しましたが、有意義な時間を過ごさせていただきました。自己紹介の時は皆さんの仕事のことだけでなく、趣味やプライベートのことなどを聞くことができず楽しくかったです。次回も、機会があれば、積極的に皆さんとお話できたらなあ、と待ち遠しいです。

○総会

土木技術者女性の会の総会だけでなく、総会というものがはじめての経験で、大変緊張しました。会場の雰囲気や議題の内容など、意見交換会のような和やかな雰囲気や内容とは一変し、皆さん真剣に議論などをされているのを見て感動しました。総会とは、女性の会とは、というものをしっかり学ばせていただける機会となりました。

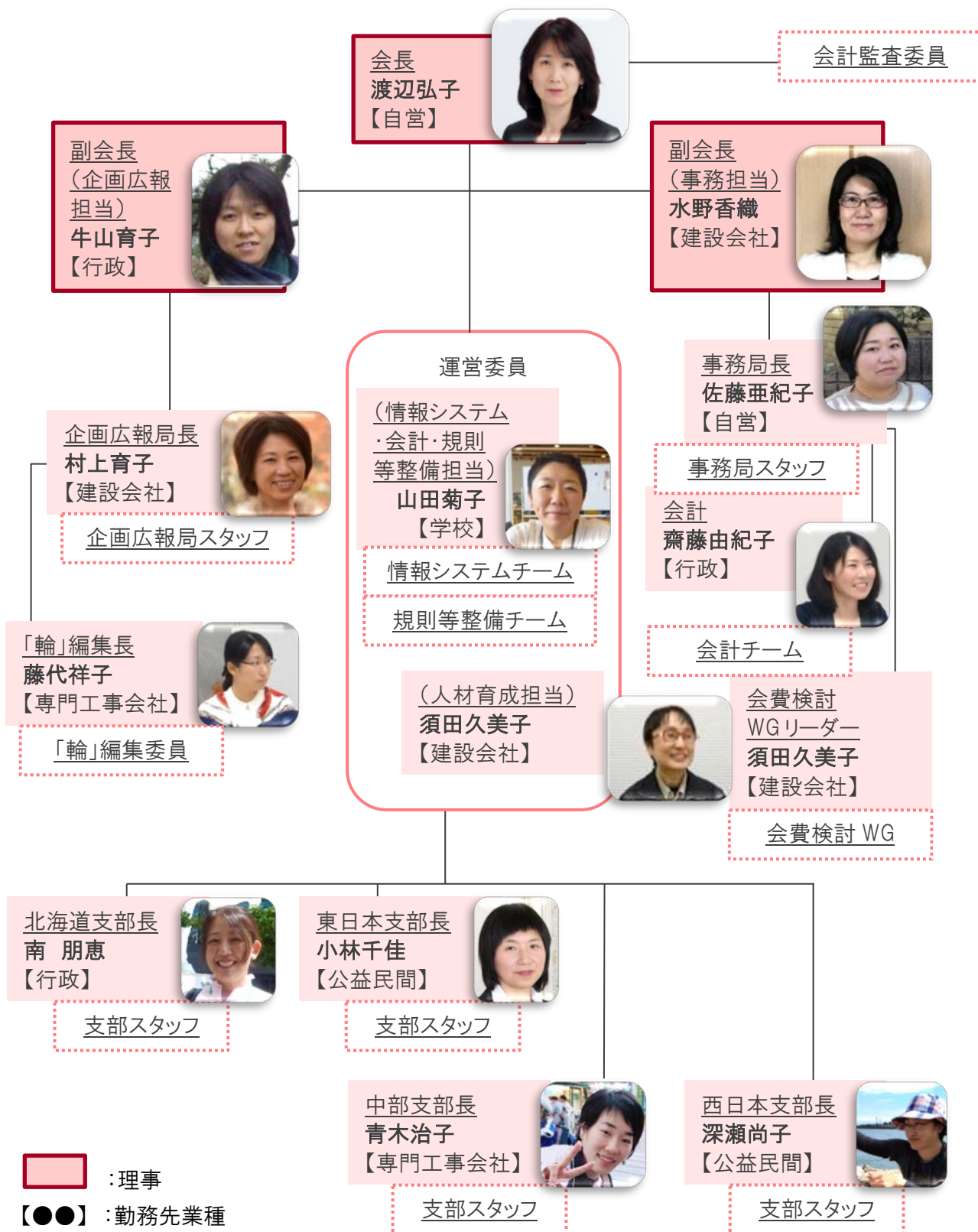
全体を通して、この2日間は大変緊張しましたが、たくさんの女性技術者の皆さんとお話しさせていただき勉強になることだけでなく、いろいろ背中を押していただく機会となりました。次回の総会ではもっとたくさんの方々とお話しできることを楽しみにしております。



意見交換会時の料理
大変おいしかったです

(一社) 土木技術者女性の会 組織図 2018

2018年度の運営委員をご紹介します。当会の運営は、このほかにも各組織・各支部に多くの有志によるスタッフが所属し、支えられています。スタッフは随時募集していますので、興味のある方は所属する支部の支部長までご連絡ください。



新任運営委員の紹介

今年度の運営委員は、副会長(理事)、事務局長、中部支部長、西日本支部長、「輪」編集長の交代がありましたのでご紹介します(「輪」編集長は編集後記をご覧ください)。



副会長(理事)就任にあたって 水野香織 (中部支部)

このたび、副会長(理事)に就任しました水野香織です。

はじめに、全国各地で相次ぐ災害で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。今年は、大阪・北海道での地震をはじめとして、毎月のように自然災害が発生し、多くの被害が発生しています。改めて、安全・安心な暮らしを守るため、土木の重要性が増してきていることを感じます。

私は、現在、愛知県内でシールド工事に従事しています。昨年まで3年半、高山市でトンネル工事を行っていました。生まれてこの方、ほとんど名古屋が生活の中心でした。名古屋と高山はたった150kmの距離ですが、自然環境も生活環境も大きく異なることを痛感しました。

これからは、中部支部はもとより、北海道から沖縄、また海外へと広がる会員・サポーターの皆さまとの出会いを通して、たくさんのことを学んでいけたらと思っています。そして、自分自身に何ができるか、何をしなければならぬかを考え、『会の5つの目的』と『土木 LOVE』の思いを胸に、活動を行っていきたくと思います。

皆さまからのご指導、ご支援よろしくお祈いします。



シールドマシンをバックに現場の仲間との記念写真



事務局長就任にあたって 佐藤亜紀子 (東日本支部)

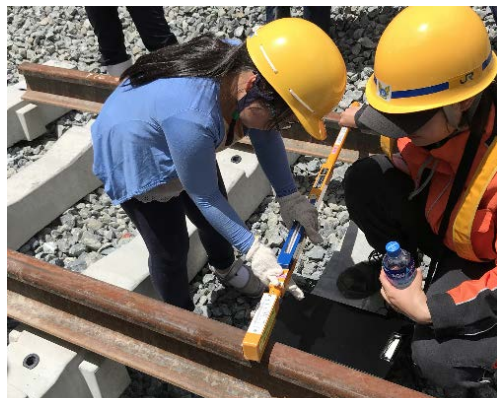
事務局スタッフとして、会費請求や会員管理を中心とした会の運営に携わっていましたが、このたび、事務局長を仰せつかることになりました。この大役のお話をいただいたとき、何代もの事務局長の仕事を目の当たりにしておりましたので、その難しさは十分理解していました。加えて、「現在、土木を仕事としていない私がお受けしても良いものだろうか…」と、ずいぶん長い時間悩みました。その後、諸先輩方の助言や励ましをいただいたことで徐々に前向きな気持ちとなり、お受けすることにしました。引き続き、よろしくお願いいたします。

さて、2013年の法人化後、事務局の仕事も細分化され、個人の負担を減らすために事務局スタッフを増員し、徐々に体裁が整ってきました。しかし、サポーターを含めた会員数が600名に迫る状況で、何か不具合は起きないだろうかと不安が付きまとうこともあります。せつかく入会していただいた会員、サポーターの皆さんのため、会の運営を停滞させることのないよう、事務局長として「今やるべきことは

何か？」を常に念頭に活動したいと考えております。

娘が生まれてからは、総会、運営委員会、支部の活動に娘を同席させていただいています。皆様のご理解があつてのことですが、私には、何よりもありがたいことでした。最近では、西日本支部のリコチャレの見学会や東日本支部の弥栄の会の読書会に出席しました。母娘の会話も弾み、いつもと違った娘の様子を見ることができたり等、とても良い経験となっています。

以前、「土木の仕事をやっていないから・・・」と悶々とした気持ちを口にしたことがありました。隣にいた先輩がすぐに「土木が好きならそれでいいの！」と仰いました。何気ない一言ですが、私の原動力に繋がり、忘れられない場面になっています。



夏のリコチャレ 2018
「ドボジョと鉄道現場体験！」にて



中部支部長就任にあたって 青木 治子（中部支部）

このたび、中部支部の支部長に就任させていただきました、青木です。中部支部は、愛知県を中心に、岐阜県、三重県、静岡県といった東海地方や、石川県、福井県、富山県の北陸3県、そして長野県に在住している会員が集まっている支部です。支部会員の方々は地方に点在しており、一か所で全員集合することが難しいのが現状です。そのため現在の支部活動は、支部会員の比率が高い愛知県、特に名古屋市周辺での活動が多いですが、遠方の会員も参加がしやすいようウェブの活用や、愛知県を飛び出した活動も視野にいれて進めていきたいと考えています。「一人でも多くの会員に会おう！」を目標に、息切れしないよう、支部の皆さまとともに、今以上に中部支部が活発に活動していけるよう、努めていきます。よろしくお願いたします。



西日本支部長就任にあたって 深瀬 尚子（西日本支部）

このたび、西日本の支部長となりました、深瀬です。よろしくお願いたします。近畿地方から西はすべて西日本支部です。広いです。こんなに広い範囲で、各地で活躍されている会員の皆さんと一緒に会の活動を盛り上げていけるなんて、今から楽しみで仕方ありません。面白そうなイベントを思いついては一人でニヤニヤしている状態です、誰か話を聞いてください。

さて今年の夏は防災について考える機会が多くありました。私は趣味で海釣りに出かける事が多いのですが、今年の台風21号の影響で崩壊した堤防や、広い範囲で陥没した道路を目の当たりにし、自然の驚異を痛感しています。日頃からの備えはもちろんですが、土木技術者としてのレベルアップも必要です。自分だけ、仕事の範囲だけ、では限りがありますが、多種多様な会員がたくさん所属しているこの会で、イベントを通して良い刺激を受けながら一緒に成長できたら良いなと思っています。「こんなことやりたい！」というご意見、お待ちしております。ぜひ一緒に、楽しいイベントを企画していきましょう！

運営委員 退任によせて

運営委員の交代に際し、前副会長の時弘みどり氏、前事務局長の松本香澄氏、前西日本支部長の古谷祥恵氏が退任されました。長年、当会のためにご尽力いただいたこと、改めて感謝申し上げます。退任にあたり、当会へのエールや想いについて「巻頭言 p.1」および「運営委員 退任によせて」として掲載します。



退任のご挨拶 松本香澄（東日本支部）

残念ながら、本業が冗談抜きに繁忙となり、大変申し訳ありませんが、任期途中で退任させていただくこととなりました。退任時には関係する皆さま方に多大なご迷惑をおかけすることとなり、本当に申し訳ありませんでした。

私は、当会が2013年に法人化して以降、法人としての体制を固める時期に事務局長としてご縁をいただきました。一般社団法人として活動を進める責任は重く、諸先輩方がつなげてきたタスキを受け止め、しっかり次の世代に引き継いでいくことが務めと心掛けながらも不安でたまりませんでした。人、モノ、金の観点から、会員の皆さまが安心して活動ができる体制を作っていきたいという気持ちで、取り組んできたつもりです。

任期中に「Civil Engineer への扉」の最新版ができたり、積極的に会のPRを進める後押しをしたり、山田顧問とご縁をいただき、法人運営に参考となるアドバイスをたくさんいただいたことも、個人的には大変勉強になりました。

今後に向けて考えていたことは2点です。1つは、今の追い風を受けて応援団を増やしながら会の収入の安定を図ること。もう1つは、多くの方がさまざまな立場で会の運営に関わることができる体制を作っていくことです。

まだまだ個人的にはやり残したことがたくさんありますが、これもご縁ですので、後任の方々に託したいと思います。今後は一会員として応援してまいります。これからの会の発展を心より祈念しております。



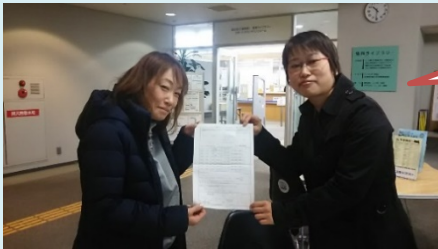


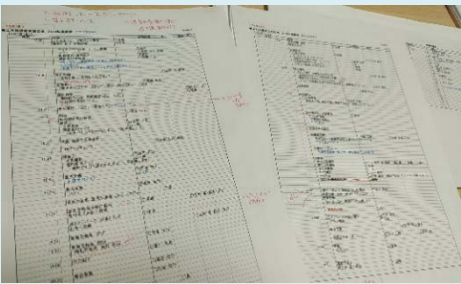
最近クラフトビールにはまっています

“見える化”土木技術者女性の会 第4弾:総会開催

「第6回総会」が開催されるまで

当会は毎年総会を開催しています。各支部が持ち回りで幹事となり、総会・意見交換会の会場の手配、関連イベントの企画などを行っています。総会の準備とは一体どのような事をするのでしょうか？2018年度の総会準備に奮闘した西日本支部の様子をご紹介します。

2017年 2月	<p>【2017年支部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度の総会は、「総会」「イベント」「意見交換会」「会計」別にリーダーを決め、準備を進めることとしました。 ・イベントは現場見学ではなく「何らかのテーマに基づいたセミナー」を開催することに！
4月	<p>【キックオフ会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会準備チームの各リーダーが集まったのキックオフ会。まずは役割分担と今後のスケジュールの確認から。 ・特にセミナーについて、テーマ、メインの対象者、講師の選定などを相談しました。 ・その後、支部内MLにて総会準備のためのスタッフを募集。「ぜひやりたい！」という声がたくさん聞こえてきたのは嬉しい！！
6月	<p>【2017年度総会(中部支部)にて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会の参加人数は54名！ここ数年、総会の参加者が急増している事を確認。さて来年の総会会場はどれぐらいの規模を押さえるべきか？前回使用したドーンセンターの「セミナー室(55名着席)」では足りないようです。
10月	<p>【会場選定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場候補としてドーンセンターの会議室を下見。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>中もチェック！</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>大きな荷物は後ろに置けますね、あとは議長席とマイクの数も確認しないと・・・</p>  </div> </div> <p>↑ 机の並びや荷物置き場など。部屋の隅々まで開けて中身を確認(北村・三好)</p>
11月	<p>【会場決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセス・利用料金の面から、総会会場はドーンセンターの「大会議室(75名着席)」を予約することに決定。 ・また総会前日に開催するセミナーのための部屋も「大会議室」に決定。 <p>【日程決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2・第4週の土曜日を休工とする現場が多い事を考慮し、総会開催は6月第4週の週末に開催することとしました。

12月	<p>【会場予約】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月6日、ドーンセンター「6月分の会議室予約抽選会」の日。抽選には他の団体もたくさん参加していましたが、幸いにも競合なく「大会議室」を予約できました。  <p>これで会場と日程が決まりました。 まずは一安心♪</p> <p>←予約を終えてホッ♪（北村・深瀬） （手に持っているのは予約受付票です）</p>
2018年 2月	<p>【2018年支部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各リーダーより、準備状況を報告。 ・セミナーは「リーダー育成」をテーマとして、プロの講師による講義と演習、年齢層別のグループディスカッションで構成することにしました！ <p>西日本支部 支部会の様子→</p> 
4月	<p>【大阪市内・某所での打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会での概要説明に向けた打合せ。 ・女性の会として、できる範囲で「保育スタッフ」と「保育ルーム」を準備することにしました。 <p>なんとかゴールデンウィークまでに、総会案内を皆さんへ配信しなければ～！</p>  <p>↑総会案内(第4稿ぐらい?)</p> <p>【運営委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会にて、総会、総会イベントとしてのセミナーの概要等を説明しました。 ・当会で「リーダー育成」セミナーを開催するのは初の試み。期待の声がありました。 <p>【総会案内の配信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの会員は職場のメールアドレスを登録しているため、総会案内はゴールデンウィーク突入前に配信しました。
5月	<p>【申込み集計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は申込用紙をエクセルにし、マクロを利用して集計作業をシステム化しました。 ・申込と同時に「楽しみにしています！」「大阪でお会いしましょう！」などのコメントを付けて嬉しい～♪
6月	<p>【スタッフ打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市内の某店でスタッフのみの打合せ。 ・スタッフと当日の動きをシミュレーション。 ・セミナー講師と当日の内容を打合せ。 <p>当日のタイムスケジュールと役割分担表→ かなり細かく設定しています</p> 

・この時点で総会出席者は68名と、総会会場の定員(75名)に迫る勢い。「75名超えちゃったらどうしよう」「スタッフは立ち見になるかも」という嬉しい悲鳴が・・・。

【スタッフ打合せ】

・大阪市内某所にて配席のためのクジ作り、タイムスケジュールの最終調整など。

若いって良いわね



マイク係とカメラ係は若手でやりますので、椅子はいりません！

↑ 総会の配席について議論(田口・三好)

・最終的に、総会出席者は70名になりました。(大会議室にしておいて良かった～)

【6月18日】大阪府北部地震

・5日後に総会を迎えるはずだった大阪でM6.1の地震が発生。

【6月19日】総会の延期が決定

- ・事務局からの連絡を受け、取り急ぎ、ドーンセンターや意見交換会会場の予約をキャンセル。
- ・セミナー講師の方にもキャンセルの連絡を入れました。本当に、本当に残念！
- ・しばらくは災害対応に専念しました。

6月に講師を依頼していた加地照子先生には、セミナーの事前準備にご尽力いただきましたが、突然の総会中止により、ご迷惑をおかけしました。そのような対応にも関わらず、当会对し、たくさんのお心遣いと応援を頂戴しました。心より感謝申し上げます。

7月

【7月11日】総会を9月に開催する事が決定

- ・関連イベントの開催是非については議論となりましたが、全国から会員が集まる貴重な場という事、まさに災害への関心が高まっているタイミングという事で、「災害についての勉強会」を開催する事に決定しました。
- ・災害復旧工事の経験を持つ西日本支部の恒成美裕己さん、会員の紹介で(公社)砂防学会関西支部の副幹事長を務める西川友章さんに講師をお願いしたところ、多忙な時期にも関わらず、お二人とも快く引き受けてくださいました。

【会場下見】

・勉強会の会場として、奇跡的に「エル・おおさか」の会議室が空いていたので即下見へ！

ホワイトボードもあるし、ここで十分勉強会を開催できますね。

スクリーンの配置チェック(古谷)→



- ・一方、土曜日開催の総会は、格安な料金で借りられる公共施設が既に満室。民間のレンタル会議室で 70 名規模が入れる部屋となると、賃料は高額になります。
- ・「エル・おおさか」付近に支店がある西松建設(株)に勤める会員が会社と交渉し、総会会場としてお借りできることになりました。

この広さ(最大 75 名着席)なら問題なし!



会場下見中(道古・古谷・村上・三好)→

【総会案内の配信】(7 月 26 日)

- ・開催決定から 2 週間ほどで総会案内を配信することができました。迅速に動いてくださった準備スタッフの方々に感謝!

【申込み集計】

- ・前回とあわせて 300 通以上のメールやりとり(申込み、委任状、質問等)がありました。



子どもが寝入った隙にメールチェック! 返信!

↑ 育児休職中のため、自宅で受付対応(菅)(注: 本人による再現写真)

8 月

【申込み締切】

- ・参加者は勉強会 30 名、総会 52 名に。

9 月

【9 月 4 日 台風 21 号上陸】

- ・4 日後に総会を迎える大阪に「非常に強い」台風が上陸。

【9 月 6 日 北海道胆振東部地震】

- ・勉強会前日に北海道にて M6.1 の地震が発生。

【勉強会準備】

- ・開催会場が平常通り営業されていること、周辺の公共交通機関も機能していることから、若干、プログラムを変更して、予定通り勉強会・総会を開催することとしました。

【9月7日 勉強会・意見交換会】

- ・会場セッティング。プロジェクターやマイクの準備。受付準備、資料の配布などを終え、いよいよ勉強会開催です。

領収書・参加者リスト・・・うんうん完璧！

受付スタッフと最終打合せ→
(三好・北村・鈴木・長)



- ・勉強会から意見交換会の様子は、p.5 へ。

【9月8日 総会】

- ・昨日の意見交換会の余韻を感じつつ、早朝から会場セッティング。
- ・他支部の方から「会場の場所がわかりづらいかも」との意見を聞き、早速若手スタッフが外に立ってくれました。さすが！
- ・総会の様子は、p.3 へ。

～その後～

【9月28日 反省会(という名の打ち上げ)】

- ・大阪市内 某店で総会スタッフを中心に反省会を開催。
- ・「今後 100 人規模の総会が予想される。会場選び、受付業務、委任状の管理など、今のやり方では厳しいのではないか」「インターネットを使って参加できる事になっても、できるだけ会いたい。集まって話したい。」「せっかく全国から会員が集まるのだから、総会後にも会員同士の交流ができるようなイベントが欲しい」等、将来目線の話が多くあがりました。
- ・総会の会場を手配してくれた森脇さんによると、総会当日に出勤していた男性社員から、「総会会場付近の自販機に飲み物を買に行った際、女性がたくさんいて“異性に囲まれるとこんなにも気まずいのか！”と感じたよ。女性社員はいつもこんな環境にいるんだね。気づいてあげられなくてごめんね」と言われたそうです。

今回は、総会準備を 2 回するという、大変貴重な経験を積むことができました(笑)。6 月の地震で延期となった時は、一時期放心状態になりましたが、何とか 9 月に総会を開催することができました。西日本支部の準備スタッフ、アドバイスをくださった先輩方、事務局の皆さま、勉強会講師のお二人、参加くださった皆さまのおかげです。ありがとうございました。さてさて数年後、次回の西日本支部ではどこで開催しましょうか(笑)。

報告：深瀬尚子(西日本支部)

ちよつと一息

おすすめ書籍 ～防災・減災編～

今回は初の書籍特集です！

今回のテーマは、はじめての「おすすめ書籍」です。

記念すべき第1回目は、記憶に新しい大阪府北部地震や北海道胆振東部地震を踏まえて、～防災・減災編～にしました。

みんなの防災ハンドブック

著者：草野かおる
出版社：(株)ディスカヴァー・トゥエンティワン

地震、津波、自然災害から身を守るための知識が4コママンガになっています。普段からの災害への備え、いざ災害がおこった際の行動、万が一被害に遭った時の対処法、災害が過ぎ去った後の心のケアまで、マンガとイラストでわかりやすく説明されているので子どもと一緒に防災・減災について一通り学べます。

(西日本支部 深瀬尚子さん)

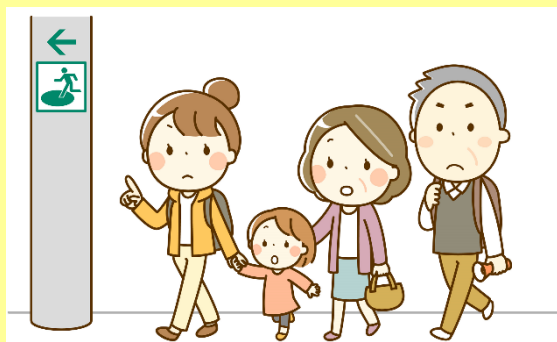
にげましょう

災害でのちをなくさないために

著者：河田恵昭、株式会社GK 京都
出版社：共同通信社

正直、全体的にみると低学年の子ども向けとは言えません。高学年以上向けです。

項目ごとに詳しい解説があるのですが、こ



れは大人向けです。

小学生でも読めるようにすべての漢字にふりがながふってありますが、これは内容的には子どもには難しいかもしれません。

しかし、絵やサインはわかりやすく、繰り返し「にげましょう」と言い続けることで、「危ないと思ったら逃げなきゃダメなんだ」という意識醸成にはなるかと思います。

シンプルな絵ですが、端的に物を言い表していることもあって、そこは防災の御大である河田先生とデザイン会社とのコラボだな、と思います。

((株)GK 京都の方には、西日本支部で勉強会の講師をしていただいたこともあります。)

(西日本支部 牛山育子さん)

被災者がいちばん伝えたいこと

～宮城県七ヶ浜町住民の生の言葉～

著者：レスキューストックヤード (編)
出版社：レスキューストックヤード

東日本大震災で津波被害を受けた宮城県七ヶ浜町での住民へのインタビューから、津波、避難行動、避難所・避難生活、仮設住宅の順に分類し、引用し、解説したブックレットです。時系列に並んでいることから、災害を追体験し、自分の行動を考えるのにとっても役に立ちました。避難所、仮設住宅の環境改善がどれほど大切か、そしてどれほど改善の余地があるのかも良くわかりました。編集・発行は、親しい研究者仲間が所属するレスキューストックヤードというNPOで、2014年に発刊されたものです。2017年には英語版も発行されています。

(北海道支部 山田菊子さん)

人が死なない防災

著者：片田敏孝
出版社：集英社

「津波てんでんこ」で有名な片田先生の講演録を本にしたものです。片田先生の主張する「避難の三原則」は、実際に被災すると納得の行くものです。すなわち、「その1 想定にとらわれるな」「その2 最善を尽くせ」「その3 率先垂範者たれ」。土木の仕事は構造物を守備範囲としているように見えますが、そ

の先に「人」がいることを考えなくてはならないということを、ひしひしと感じました。

(北海道支部 山田菊子さん)

震災と情報

—あのとき何が伝わったか

著者：徳田雄洋
出版社：岩波書店

東日本大震災の1時間後から6か月後まで、著者に伝わった公式発表やマスメディアの発信した情報が冷静に淡々と時系列で列挙されます。記録すること、そして記録したものを振り返ることの大切さが伝えられたように思います。北海道胆振東部地震に遭遇した私が、発災直後から短い記録を Facebook に発信し続けたのは、この本を読んだからかもしれません。

(北海道支部 山田菊子さん)

遺体

著者：石井光太
出版社：新潮文庫

心が痛くなり、自身がその状況になったらどうなってしまうのだろうと考えさせられる本です。目をそむけたくないようなことをあえて考えなくても良いのかもかもしれません。ただ、普段“死”を感じるのが少ないため、

少しでも心の耐性を付けたいと思ったのと、実際に起こったこと、これからも起こりうることとして、少しでも当事者意識を持って防災に取り組めるよう読みました。

(中部支部 藤代祥子さん)

次の震災について 本当のことを話してみよう

著者：福和信夫
出版社：時事通信社

「防災対策やらなくちゃ」と思いつつも、どこか先延ばしになっていました。しかし、この本を読んでから少しずつ防災対策を進めるようになりました。

これから起こり得ること、真剣に考えている人が実践している対策などがわかりやすく載っており、一人でも多くの方が自分の生活に落とし込めたら良いなと思う内容です。

(中部支部 藤代祥子さん)



皆さま、今回も素晴らしい投稿ありがとうございました！ 防災・減災について、日頃から意識することの重要性を、地震を経験して、実感いたしました。「備えあれば憂いなし」です。ぜひ、おすすめ書籍を参考にして、備えていただければと思います。

【まとめ 北海道支部 西村和恵】



イベント報告：リコチャレ 2018 ドボジョと土木現場体験！ 「カントクさんになってみよう！」

- 日時：2018年8月28日(火) 14:30～17:00
- 場所：東京外かく環状道路中央 JCT 工事現場
- 参加者：36名(当会会員14名、外環PJ女性技術者の会14名、中学生2名、高校生1名、大学生5名)
- 主催：(一社)土木技術者女性の会 東日本支部

国土交通省関東地方整備局東京外かく環状国道事務所、外環プロジェクト女性技術者の会の皆さまのご協力を得て、最盛期を迎えている東京外かく環状道路中央 JCT の工事現場において、東日本支部初の試みとなる「夏のリコチャレ 2018 理工系のお仕事を体感しよう！」(※1、内閣府・文部科学省・日本経済団体連合会が主催)の登録イベントとして、未来のドボジョ候補(中・高・大学の女子学生)を対象とした現場見学会を開催しました。

今年は7月から暑い日が続き、見学会の開催も危ぶまれましたが、当日は薄曇りの中、女子中学生2名、女子高校生1名、女子大学生5名および女性土木技術者28名(会員14名、外環PJ女性技術者の会14名)の方が集まり、8グループ(女子学生1名+土木技術者3～4名)に分かれて現場を見学しました(東日本支部 2018年度現場見学会 同時開催)。



見学会概要説明の様子



東京外かく環状道路は、都心から約15kmの圏域を環状に連絡する延長約85kmの道路であり、関越道と連絡する大泉JCTから高谷JCT間の約49kmが開通済みで、現在、関越道から東名高速間の約16kmが工事中となっています。今回見学した場所は、中央道と交わる中央JCTの現場でした。中央道を新宿から八王子方面に走行すると、三鷹料金所から約500m手前の辺りです。

『中央JCTの現場』と一言で表しましたが、そこは大林JV、鹿島JV、清水JV、戸田JV(五十音順)の、4つの共同企業体が集まる大現場となっています。今回のリコチャレでは、「カントクさんになってみよう！」という副題の下、各JVに協力していただき、作業打合せ書を模した当日の行動予定表を参考に現場の安全確認やチェックポイントを回りながら、熱中症対策コーナーでは冷やタオルや空調服の体験、地下の構築部では鉄筋結束や電子小黒板での鉄筋検査体験を行いました。連壁(TRD工法)の説明や、シールドマシンの組立動画は、専門的で少し難しいかなと思いましたが、各JVの丁寧な説明により、皆さん興味深く聞き入っていました。

そして、ドローンで記念撮影を行い、写真をプレゼントするという、今どきな演出もありました。



作業打合せ書を模した行動予定表



ドローンからの集合写真

見学会の最後には、参加者を代表して2名(中学生1名、大学生1名)の方に朝礼台の上から感想を話していただきました。中学生からは、「将来像の視野を広げることができた。」そして大学生からは「自分も現場で働きたいと思っているので、女性技術者の活躍を心強く感じた」とコメントがあり、まさに今回のリコチャレの目的である『将来の自分をイメージして進路選択することを応援』できたのではないのでしょうか。まだまだ、きつい・汚い・危険と思われがちな現場の仕事ですが、今回の見学会で女性がいきいきと働いている姿を見

てもらふことで、自分が何をやりたいのか、どんな仕事に就きたいのか悩んだ時に思い出してもらい、皆さんの将来を考えるきっかけになってもらえれば嬉しく思います。

※1 リコチャレとは…理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして進路選択(チャレンジ)することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取組みです。理工系分野が充実している大学や企業などの『リコチャレ応援団体』の紹介や、団体が実施するイベント情報の提供、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っています。(内閣府男女共同参画局 HP 参照:<http://www.gender.go.jp/c-challenge/index.html>)



報告:栗田有紀子(東日本支部)

メディア掲載

会のウェブサイトに最新情報を掲載しています。

<http://www.womencivilengineers.com/related-article>

サポーターおよび新規会員募集

一般社団法人土木技術者女性の会では、当会の活動をさらにパワーアップするため、私たちの理念に賛同し、継続して活動を応援して下さる「サポーター」を広く募集いたします。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願い致します!

<http://www.womencivilengineers.com/admission/membership-type>

寄附制度のご案内

土木技術者女性の会は、土木学会誌(1982年9月号)に掲載された「座談会:女性土木技術者おおいに語る」がきっかけで1983年1月に発足しました。任意団体として30年の長きにわたり活動をし、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たなスタートを切りました。全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムや支部による活動などを通じて、女性土木技術者、将来の女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供しています。

つきましては、当会の社会貢献活動への取組みをご理解いただき、ぜひ、一般社団法人土木技術者女性の会への御寄附をお願い申し上げます。

<http://www.womencivilengineers.com/donation/guidance>

連載 海外在住の会員からのメッセージ

私のイギリス PhD 生活

— 学生生活編 —

「輪」第 63 号からはじまった中尾晴子さんの連載の 2 回目です。前回の — 留学を決めたきっかけ編 — に続き、今回は学生生活について紹介してもらいます。



中尾晴子(学生会員)

イギリス、リーズ大学 Institute for Transport Studies(ITS)にて博士課程を始めてからはや 2 年、修士時代を含めるとイギリス暮らしもう 3 年となりました。今回は、イギリスでの実際の生活の様子を「修士課程時代」と現在、「博士課程」に分けて書いていこうと思います。


[修士課程の学生生活]

イギリスの修士課程は日本と違い 1 年で修了します。そのぶん、学ぶ量が少なかったり、内容が薄い等ということはまったくなく、2 年分でやる量を 1 年に詰め込んでいるため、とにもかくにも忙しいです。イギリスの大学は基本的に 2 学期制となっており、リーズ大学の場合は 10 月から 12 月中旬が 1 学期、クリスマス休暇を挟んで 1 月中旬から下旬にかけてが試験期間。1 月下旬から 5 月上旬までが 2 学期、試験期間後 6 月中旬から 8 月末までのおよそ 3 か月間が、学部生にとっては夏休みですが、大学院生にとっては修士論文を完成させる期間としてあてられています。クリスマス休暇の他に、2 学期中 2 週間ほどのイースター休暇もありますが、大学院生にとっては、休暇というよりも、授業がなく課題作成に集中できる期間といった位置づけになる場合が多いと思います。

ITS の修士課程の場合、卒業するためには 180 単位を取ることが必要です。1 つの Module(講義)で 15 単位ですので、各学期に 4 つずつ計 8 つの Module で 120 単位、加えて、修士論文が 60 単位分で、あわせて 180 単位となる仕組みです。成績は中間課題と期末課題の結果で基本決まりますが、時々期末課題のみで 100%成績が決まることもあります。課題には、エッセイ、レポート、試験、プレゼンテーションなど何種類か形式があり、私の場合は、ほぼレポートかエッセイが課題として出されました。評価方法は Fail/Pass/Merit/Distinction の 4 段階形式で、20-49 点で Fail、50-59 点で Pass、60-69 点で Merit、70-90 点で Distinction と評価されます。Fail はつまり不可なので、年度末に再試験を受ける必要があります。

[経歴]

2010 - 2014	北海道大学環境社会工学科 国土政策学コース 修了
2014 - 2015	北海道大学 工学院 北方圏環境政策工学専攻 中退
2015 - 2016	MSc. Transport Planning, Institute for Transport Studies(ITS), University of Leeds 修了
2017 -	PhD student, ITS, University of Leeds



1科目に対し、自主勉強時間と授業時間をあわせて150時間費やすことが求められており、そのうちの授業時間数はだいたい20から30時間と、学生の自主学習に重きを置いたシステムになっています。そのため、授業は必須の基礎的な知識や、基本的な考え方、その分野で有名な理論や文献など、自分で深く勉強する際に役に立つツールを提供してもらっている場になっています。言い換えると、授業内容を理解するだけでは課題を解くのにまったく足りず、逆に課題を解くために勉強することで、より深い知識を身につけさせていく教育方法になっていると個人的には思います。このように個人主義的でとてもシステムティックな教育方法はイギリスならではの教育方法ではないかと思っています。

良い成績を取りたいければ、朝から晩まで毎日図書館に通いつめて必死に勉強する生活が待っています。努力の先にあるものは成績だけではなく、与えられた課題が具体的にどのような答えを期待しているかを分析する力、答えを作成するためにどのような情報が必要かを判断する論理的思考力、そして、その情報を効率的に入手する力等、さまざまな技術を手に入れることができます。当時は英語も今ほど流暢ではなく、授業時間数や単位情報等全てウェブサイトで公開されていたとしても、それが何を意味するかを冷静に分析する余裕もなく、ただただ、必死に勉強をしておりましたが、今思うと努力した以上に得るものがあつたと感じています。

修士時代は生活の大部分を勉強に充てていましたが、それ以外の時間で友達と飲みに行ったり、ハウスパーティーを開いたり、イギリスの有名な都市を訪れたり、息抜きもかねて楽しく過ごしました。特に、1年間苦楽を共にしたコースメイトの間では不思議な一体感が生まれ、かけがえのない繋がりが作れたと思います。

[博士課程の生活]

修士課程とは打って変わって、博士課程では一切授業もなく課題もなく、とても自由で融通が利く代わりに、完全な自己責任システムとなります(実験系の研究をする場合は違うと思いますが)。ITSの場合、1年目の最後にTransferという名の試験があり(学科、大学によっては2年目の最後)、それに通らなければ、正規の博士課程の学生として2年目に進むことができません。そのため、実は試験を通過するまでは、書類上では、Provisional PhD student つまり博士課程の学生(仮)と記されています。試験に通るためには、博士論文のテーマ、研究目的、研究方法などをまとめた50枚程度のレポートを提出し、指導教官以外の2人の先生によって、研究のテーマが十分に具体的か、学術的貢献度が充分であるか、かつ達成可能であるかを審査されます。Transferに通ると、次は博士論文提出まで義務付けられた課題や締め切りはないため、学会や論文誌投稿などの目標を自分で作って研究の進行状況を管理していくことが必要です。そのため、イギリスで博士課程をやる場合は、とても高い自己管理能力が求められます。指導教官の位置づけも、「指導をしてくださる先生」ではなく、学生自身がマネジメントしなくてはいけないリソースの一つであり、そのリソースをどう活かすかは学生次第です。もちろん、大学側はいろいろなトレーニングコースや機会を提供してくれますし、指導教官の先生方も積極的に指導をしてくださりますが、原則として、自由の分だけ責任も大きいというスタンスです。

また、日本と違ってイギリスでは研究室というシステムがなく、各学生に基本2人、時には3人の指導教官がつき、博士課程の学生と指導教官との小さなチームで研究を進めていきます。そのため、自分で上手にコミュニティーを作らないと、簡単に孤立してしまい、完全自己責任の重圧も重なって鬱になる博士課程の学生がとても多く問題となっています。幸いITSは博士課程の学生が70人と大所帯

ですので、各自がやっている研究はまったく違いますが、コミュニティーを作ることは他学科に比べて容易だと思います。人によっては問題ないかと思いますが、いくらコミュニティーを上手く作っても、研究自体はとても孤独な作業です。特に、何の締め切りも義務もないイギリス流のスタイルで、3年または4年という長い時間をすべて研究だけに費やす事は難しく、上手くメリハリをつけ、研究と息抜きのバランスをとるのがとても重要です。この点でも、自分をよく知り長期的な視点で自己管理をする事の難しさ、そして大切さを日々学んでいます。

[生活面]

最後に普段の生活面ですが、日本とイギリスのもっとも大きな違いは、イギリスの学生は基本的にシェアハウスをしているということです。家賃がとても高いので、寮に入っていない学生は3-4人で同じ家に住むか、2人でフラット(通常のアパート)をシェアしている事が多いです。家やフラットをシェアする場合、一人一人にベッドルームが与えられていて、キッチン、リビング、風呂やトイレを共同でしようするという形式です。場合によっては、風呂とトイレ、またはトイレが各部屋についていることがありますが、そうになると家賃が高くなります。また、家が古いというのがありますが、日本に比べて平均的に家の質が低く、特に水周りがしっかりしていないのが難点です。水漏れはよくありますし、換気設備が悪く、油断しているとすぐにカビが生えます。

イギリスの食事はおいしくないと評判ですが、最近はそのようなことはなく、特にリーズには大学が3、4つあり、とてもインターナショナルなコミュニティーなため、いろいろな国のおいしい料理を提供するレストランがたくさんあります。日本の食品が手に入る店もあり、食事面では困っていません。ただ、安くておいしくてヘルシーなものがなかなか売っておらず、フィッシュアンドチップスなど、おいしいものは脂っこいものが多く、かつ量も多いため、自炊しないと簡単に太ってしまいます(現に修士時代、人生最高体重を記録しました…)

[おわりに]

今回のエッセイを通して、イギリスでの学生生活がどんなものか、皆さんに少しでも伝わったと思います。海外で暮らし、勉強、研究することは決して楽ではありませんが、その分、とても成長できますし、いろいろな経験がたくさんできます。やはり、新しいことに挑戦するのは、いつでも楽しいものです。そんなこんなで、博士課程も残すところあと1、2年ですが、後悔のないようやりきろうと思います！



同じ博士課程の友人とHaworthにて
2018年6月

お知らせ

●●【祝】土木広報大賞 2018 審査員賞受賞「Civil Engineer への扉 2017 年版」●●



受賞の様子(左:岡村氏、右:藤代 WG リーダー)

土木技術者を目指す女性のための就職支援冊子「Civil Engineer への扉 2017 年版」が土木広報大賞 2018 の審査員賞を受賞しました。

この受賞は、制作に関わっていただいた方々はもちろんのこと、ご寄附等で支援してくださった皆さまのおかげです。本当にありがとうございました。

賞状および記念品のピンバッジ



<表彰の言葉>

岡村次郎氏(土木広報センター次長、国土交通省大臣官房技術調査課長)より

「審査員賞」の受賞おめでとうございます。本冊子は、実際に活躍する女性職員の働き方やメッセージをわかりやすく掲載するなど、入職後の自分の姿や将来像をイメージしやすいよう工夫されています。女性が活躍することは当たり前のことですが、残念ながら社会の取組みは遅れているのが現状です。本冊子は、土木業界への入職を考えている女性技術者に勇気を与えるばかりでなく、社会の取組みは遅れている、もっと女性が活躍できる社会に変えていこう、というメッセージを社会全体に送る効果もある大変良い取組みです。私たちの仕事を新3K(給与、休暇、希望)とすべく取り組んでおりますが、女性活躍という視点から土木業界をますます魅力的なものとしていただくことをお願いしまして、私からのコメントとさせていただきます。

本日はおめでとうございます。



表彰後の記念撮影

●●【ご案内】当会の各種フォーマット●●

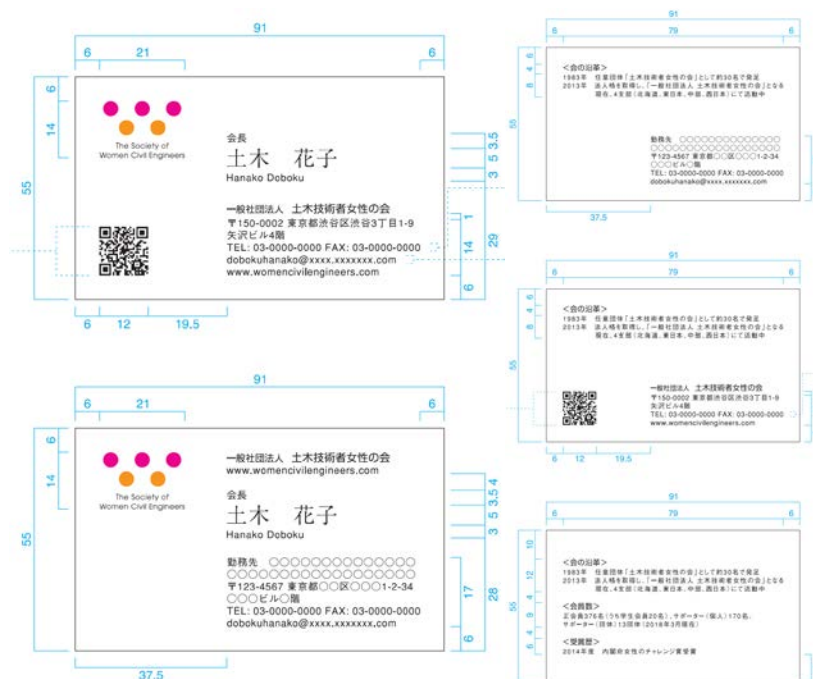
当会のシンボル・ロゴに関する各種フォーマットやサポーター専用マーク、リンク用バナーをご案内します。ぜひご活用ください。

※ご使用の際は、「シンボル・ロゴ使用ガイドライン第3版」をご参照ください。

ガイドラインは、当会 web サイトの“会員ページ/シンボル・ロゴを使用した各種フォーマット <http://www.womencivilengineers.com/members/symbol>”や“会について/サポーターについて <http://www.womencivilengineers.com/about/supporter>”から参照いただけます。

●会員専用名刺

表面のデザイン 2 種類、裏面のデザイン 3 種類に増えました。活用方法に合わせて選択ください。

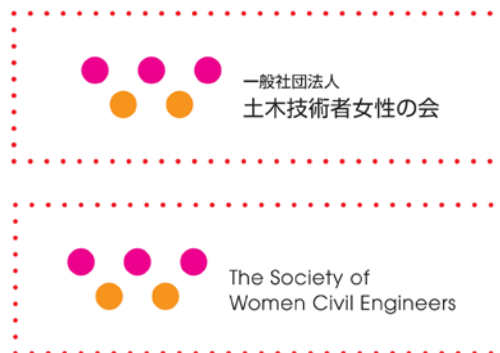


●サポーター専用マーク

サポーターの方に限りダウンロード可能です。名刺等にご活用ください。

●リンク用バナー

ご利用の際は、当会 web サイトのトップページにある「リンクの際の注意事項(リンク用バナーの近くにありますが)」も合わせてご確認ください。



●●【注意喚起】倫理規程遵守のお願い●●

昨今、土木界においても法令遵守が強く求められていることは、皆さま、ご存知のとおりです。様々な立場にある会員の皆さまに、今後も継続して健全に安心して活動いただくためには、当会会員としての活動に際して法令、会の規則等を遵守いただくことが必須です。

会員の皆さまには、今一度、当会の倫理規程をご確認いただき、これまで以上に注意深く行動されるよう、ここに要請します。

なお当会では会員として参加される外部の行事等の際に、当会の名刺をご使用になることをお勧めしています。

●当会の倫理規程

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規程を遵守するものとする。

- ・会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
- ・会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
- ・会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

<http://www.womencivilengineers.com/about/summary>

●ご注意いただきたい会員としての行動

- ・所属先による営業行為と取られかねない一切の行為
- ・守秘義務の違反と取られかねない一切の行為

例えば…

<会員間で>

- ・特定の入札行為を話題にすること
- ・特定の業務の実施方法に関する相談を持ちかけること
- ・業者の紹介や業者への発注を依頼すること

<会の外部で>

- ・会の役職等により招聘され出席する行事等において、所属先を前面に出すこと 等

●当会の名刺

公平中立な立場であることを明確にするためにも、ぜひ当会の名刺をご使用ください。

会員専用ページ(ログインが必要です)に、名刺についてのご案内があります。

当会 web サイト／会員ページ／シンボル・ロゴを使用した各種フォーマット

<http://www.womencivilengineers.com/members/symbol>

●本件に関するご相談先

(一社)土木技術者女性の会

コンプライアンス担当窓口

compliance@womencivilengineers.com



■ イベント・活動記録

- 日時
- 場所
- 参加者



■第 4 回ブリッジトーク「橋梁分野における女性技術者の働き方について」

- 2018年2月19日(月)15:00～17:00
- 日本橋梁建設協会本部
- 講師:須田久美子さん(当会会員)

■平成 29 年度 修了生ワークショップ(文部科学省)「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

連携コンソーシアムシンポジウム『インフラを考える！—ME 養成 10 年—続:あたりまえの‘みち’のために』関連行事

- 2018年2月25日(日)15:30～17:30
- 高山市民会館 2-3 ルーム
- 水野香織さん(当会会員)

長崎大学・愛媛大学・山口大学・長岡技術科学大学・岐阜大学の養成講座を修了したそれぞれの女性土木技術者を中心に、女性目線で土木業界についての現状や課題を話し合いました。その中で、当会の活動および就職支援冊子「Civil Engineer への扉」を紹介しました。

■高速道路シンポジウム 2018

- 2018年5月16日(水) 15:40～16:40
 - 札幌グランドホテル 2階「金枝の間」
 - 講演者:山田菊子さん(当会会員)
- 小磯修二氏、和泉晶裕氏と「地方と高速道路」をテーマとする鼎談に登壇しました。専門領域からの提案をするとともに当会の活動、意義を紹介し、終了後には、女性技術者の皆さんや女性技術者を持つ上司の方々と意見交換を行いました。

■建設現場における女性活躍の環境事例

- 2018年5月16日(水) 16:00～17:00
 - 中林ビル 5階 会議室
 - 講演者:広野 彩さん(当会会員)
- 職員約 30 名を対象に、当会の紹介と建設業界における女性活躍の課題と展望について講演しました。講演後は、参加された方と建設現場における女性の活躍について、活発な意見交換を行いました。

■ツタワールドボク学会 全国大会 2018

- 2018年6月16日(土) 14:00～15:00

- 九州大学 箱崎キャンパス 旧工学部本館
 - パネリスト:甲斐飛鳥さん(当会会員)、萩尾千種さん(当会会員)
- 「愛しさと、切なさと、働きやすさと～役所・施工・建設機械メーカーの働きやすさ自慢大会～」と題して、MC や会場に訪れた参加者を交えてディスカッションを行いました。会場内では活発な意見が飛び交い、大いに盛り上がりました。

■日本建築仕上学会 女性ネットワークの会 5周年記念講演会(東京会場)

- 2018年6月29日(金) 13:30～17:00
 - 東京都美術館 講堂
 - パネリスト:熊本好美さん(当会会員)
- 「働く女性がさらに輝くための未来のために」をテーマとしたトークイベントに、建設業界で働く女性 6 名が登壇し、仕事への情熱や悩み、その解決方法などに加え、自身の子育てについても話をしました。トークの中で当会を紹介し、土木業界でも女性が活躍していることを、150 名ほどの参加者に伝えることができました。

■土木学会 D&I ウィーク

- 2018年7月2日(月)～7(土)
 - 土木会館
- 会館内において、当会の取り組みを紹介するポスターを 4 種類、「Civil Engineer への扉」が展示されました。D&I フォーラムでは須田久美子さん(当会会員)がパネルディスカッションに、また D&I カフェでは、ダイバーシティ推進委員会のメンバーである当会の会員も参加しました。

■コンクリート工学年次大会 2018(神戸) 生コンセミナー

- 2018年7月4日(水) 15:45～16:15
 - 神戸ファッションマート イオホール 9階
 - パネリスト:牧野由依さん(当会会員)
- 「生コンクリートの現場をもう一度考える」第 2 部において、生コン、ゼネコン、コンサル、学識者の女性が登壇し、さまざまな視点から女性活躍に関するディスカッションが行われ、会場を訪れた参加者は熱心に耳を傾けていました。

■コンクリート工学年次大会 2018(神戸) 特別発表会

- 2018年7月5日(木) 15:45～16:15
 - 神戸ファッションマート イオホール 9階
 - 発表者:須田久美子さん(当会会員)、小川由布子さん(当会会員)
- 当会の会員がメンバーでもある「コンクリート分野における女性活躍推進普及委員会」が、中間報告と

して、コンクリートに関わる業界全体に向けた提言案を発表しました。会場は予想を上回る 261 名の参加者で溢れ、会場の後方では立ち見が出るほど、注目度の高い発表でした。

■女性土木技術者による意見交換会「いいね！笑顔いっぱい働く現場」

○2018年7月13日(金) 13:00~17:00
○宮城県庁 1階 みやぎ広報室
○講演者:渡辺弘子さん(当代会長)
官民約 60 名の女性土木技術者が集まり、職場環境の改善のための意見交換を行ないました。基調講演では、野坂周子企画調整官(国土交通省関東地方整備局)が今後の建設業界の展望を述べ、続くワークショップでは、12 班に分かれてディスカッションが行われました。最後に、渡辺弘子さんが当会の紹介をし、ネットワークの重要性について述べました。

■けんせつ小町・チーム“愛” 2018 第 1 回勉強会

○2018年7月26日(木) 15:10~16:10
○りんくるハウス※
○講演者:青木治子さん(当体会員)
愛知県道事務所管内で活躍する女性技術者約 25 名を対象に、施工段階におけるBIM/CIM活用と当会の紹介について講演をしました。BIM/CIM の活用だけでなく、土木界で働く中、自身が工夫した内容について共感を得ることができる内容でした。※“りんくるハウス”とは小川監督官職員待機所に設置された現場女性休憩所の愛称です。

■日本建築仕上学会 女性ネットワークの会 5周年記念講演会(名古屋会場)

○2018年7月27日(金) 13:30~16:30
○ウィルあいち(愛知県女性総合センター)
○パネリスト:仲松ジャニスさん(当体会員)
定員近くが参加する、活気あふれる会となりました。また、来場者には男性も多く、貴重な男性の意見も聞くことができました。

■女子中高生夏の学校 2018 ~科学・技術・人との出会い~

○2018年8月10日(金)
○独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
当会東日本支部より、小林千佳さん、大橋麻衣子さんが、(公社)土木学会市民交流研究小委員会とコラボし、ポスターセッションに参加しました。将来に夢をはせる女子中高生の方に土木の仕事の醍醐味を伝える、というブースで、皆さん熱心に耳を傾けて頂き、あっという間の 2 時間余でした！

■第 6 回総会

○2018年9月7日(金)、8日(土)
○西松建設(株)西日本支社 他
(⇒詳細 p.2~)

■第 1 回女性技術者交流会

○2018年10月31日(水) 13:30~18:30
○名古屋プライムセントラルタワー13階 第4会議室
○講演者:青木治子さん(当体会員)、川瀬瞳さん、(当体会員)、西雪美樹さん(当体会員)、藤代祥子さん(当体会員)
自身が行っているワークライフバランス、土木業界で仕事をしていく上で心がけていることなどについて発表しました。その後、50 人ほどの女性技術者とともに「いきいきと働く像」をテーマに対話しました。

■建設業界で働く女性と女子学生との交流会 in メッセナゴヤ 2018

○2018年11月9日(金) 11:20~12:00
○ポートメッセなごや交流センター1階 エントランスホール特設会場
○パネリスト:仲松ジャニスさん(当体会員)
建設業で働いている女性技術者と学生の交流を目的とし、女性が思っている、もしくは、苦労していることをざっくばらんに話しました。学生からの質問も多くあがり、有意義な時間になりました。

■G 空間 EXPO2018 における地理空間情報フォーラム 2018

(1)国土強靱化に対応した国及び測量・設計業団体の活動状況

○2018年11月16日(金) 15:20~17:00
○日本科学未来館 7階 コンファレンスルーム天王星
○講演者:山田邦博さん(当会顧問)

(2)女性技術者として働き続けるために~女性技術者へのエール~

○2018年11月16日(金) 15:20~17:00
○日本科学未来館 7階 コンファレンスルーム天王星
○講演者:須田久美子さん(当体会員)、パネリスト:藤代祥子さん(当体会員)
測量・地理空間情報業界の女性技術者が自分らしく働き続けるためのヒントを得ることを目的として開催されたものです。須田さんの特別講演後に“ワークライフバランス”や“身近なロールモデル”などについてパネルディスカッションを行いました。

■第 1 回建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会

○2018年11月20日(火) 13:30～15:00
 ○中央合同庁舎第3号館4階特別会議室
 ○出席者:渡辺弘子さん(当代会長)
 出席した関係団体が各自の活動を紹介し、有識者3名からコメントをいただき、第1回の会議は終了しました。次回は、来年1～3月に、最終回は4～6月に開催予定です。

■但馬の明日を考えるフォーラム ～住みたい但馬・魅力ある但馬を目指して～

○2018年11月29日(木) 13:30～
 ○八鹿文化会館ホール
 ○パネリスト:深瀬尚子さん(当代会員)
 養父市主催のフォーラムに西日本支部長の深瀬さんがパネリストとして参加し、土木の魅力、但馬地域におけるインフラ整備の評価、課題について議論しました。最終的には会場からの意見も取り入れ、「魅力ある地域づくりを考えるにあたっての方向性と具体的提案」を取りまとめました。土木の魅力を発信するとともに、但馬地域の今後の活性化にもつながるフォーラムとなりました。



【北海道支部】

■北海道支部 北海道開発局との合同現地見学会と意見交換会

○2018年7月31日(火) 10:00～15:15
 ○北海道開発局 札幌開発建設部
 ○28名(北海道開発局 11名、当代会員 10名、一般 7名)
 官民間わず、女性技術職員が一堂に会し、昼食をとりながら職場や家庭における女性ならではの悩みやその解決方法など、情報交換をしました。また女性職員が現場監督をしている工事現場2箇所を見学しました。(共催:北海道開発局、(一社)土木技術者女性の会北海道支部)

■北海道支部 土木の日パネル展 2018

○2018年11月15日(木)
 ～16日(金) 17:00～19:00
 ○札幌駅前通地下歩行空間 北大通交差点広場(西)
 ○11名(うち当代会員 6名)
 一般市民の方を対象に土木に対する啓発活動を目的に「女性土木技術者おしゃべりサロン」を開催しました。当日の様子は当会 web サイトに掲載しています。



【東日本支部】

■東日本支部 新年会

○2018年2月3日(土) 13:00～15:00
 ○タントタント オステリア 恵比寿アトレ店
 ○当代会員 23名+お子さま 3名
 恒例の2月第1土曜日ランチの新年会を開催しました。お洒落な恵比寿駅ビルのレストランフロアのイタリアンにて、新春の温かな光が降り注ぐ中、世代を超えた土木話に花を咲かせました。



■東日本支部 平成30年現場見学会(女性技術者交流サロン)

○2018年7月25日(水) 13:30～17:30
 ～26日(木) 10:00～15:30
 ○1日目:女川原子力発電所、2日目:東北地方太平洋沖地震に伴う災害復旧工事(気仙沼線津谷川橋梁新設、中島地区海岸災害復旧工事)
 ○32名(うち当代会員4名)
 1日目:女川地区の津波被災者用高台移転用造成地をバス車窓より見学し、女川原子力発電所構内では、地震や津波のほか、豪雨や竜巻等の自然災害に対するの多重防災対策を見学しました。
 2日目:石巻地区の津谷川橋梁、防潮堤、消波堤、BRT専用道等の災害復旧工事を見学しました。

■東日本支部 ドボジョと土木現場体験! (2018年度現場見学会～東京外かく環状道路中央JCT工事現場～)

内閣府・文部科学省・経団連が主催する「夏のリコチャレ 2018 理工系のお仕事を体感しよう!」の登録イベント

○2018年8月28日(火) 14:30～17:00
 ○東京外かく環状道路中央 JCT 工事現場
 ○36名(当代会員 14名、外環PJ女性技術者の会 14名、中学生 2名、高校生 1名、大学生 5名)
 開削工法とシールド工法によるスケールの大きなトンネル現場の見学に加え、「カントクさんになってみよう!」と銘打って、鉄筋結束・検測、熱中症対策、朝礼などの監督業務体験を織り込み、作業計画書を模した見学進行表に記入していくなどの企画により、充実した見学会となりました。
 (⇒詳細 p.27～)

■東日本支部 土木系女子学生のためのキャリアセミナー

- 2018年10月27日(土) 9:30~12:30
- 東京ウィメンズプラザ視聴覚室
- 41名(うち当会会員19名、学生会員1名)
- 当日の様子は当会 web サイトに掲載を予定しています。



■東日本支部(東北地区) 女性技術者交流サロン(秋の現場見学会)

- 2018年11月1日(木)
- 一関遊水事業 舞川水門、長島水門ほか 2箇所
- 19名(うち当会会員4名)
- 当日の様子は当会 web サイトに掲載しています。



【中部支部】

■中部支部 支部会&ランチ懇談会開催

- 2018年3月11日(日)
- 支部会 10:00~12:30
- 懇談会 12:30~14:00
- (株)日本ピーエス中部支店 会議室 他
- 当会会員5名
- 2017年度活動総括および2018年度活動計画・体制等に関して打合せを行いました。



【西日本支部】

■西日本支部 支部会・新年会開催

- 2018年2月10日(土)
- 支部会 16:00~17:30
- 新年会 18:00~20:00
- 支部会 清水建設(株) 関西支店
- 新年会 本町 grits
- 支部会 当会会員15名 学生会員1名
- 新年会 当会会員8名 学生会員1名
- 2017年度総会における重要事項の報告と、関連事項の周知を中心に、1年の活動を振り返りました。また、6月に関西で行われる総会の準備について話し合いました。活動計画では、新企画として、会員同士の交流を目的とした気軽に参加できる情報交換会を盛り込みましたので、引続き西日本支部の活動にご期待ください。

■西日本支部(九州地区) 現場見学会および勉強会

- 2018年11月16日(金) 13:45~
- 現場見学会
- (主)筑紫野古賀線 須恵・粕屋2工区
- 勉強会 (公財)福岡県建設技術情報センター
- 8名(当会会員7名、サポーター(団体)より1名)
- 主要地方道筑紫野古賀線バイパス現場の見学、および公的試験機関による品質管理試験勉強会を実施しました。当日の様子は当会 web サイトに掲載を予定しています。

■西日本支部(関西地区) 現場見学会

- 2018年11月22日(木) 14:00~
- 柏原構内大県本郷線 BV 新設他工区
- 当会会員5名
- 都市計画道路「大県本郷線」のうち、JR 関西本線と交差する部分に「R&C工法」によりボックスカルバートを築造する工事の見学を行いました。鉄道営業路線の直下で推進工事を行うことや、施工ヤードに民家が近接していることなど、現場の特別な課題とその対応策について説明いただきました。施工中の苦労をさまざまな工夫で乗り越えた話では、現場の方々の熱い想いを感じることができました。当日の様子は当会 web サイトに掲載を予定しています。



【まとめ:岡本茉莉(中部支部)】

<編集後記>



藤代祥子（編集長/中部支部）

今年度から編集長を務めることになりました。正直なところ、小さい頃から本や新聞を読むことが苦手なため、自身に務まるのか、多岐にわたる当会の活動をうまく伝えることができるのか不安もあります。「輪」編集委員をはじめ、皆さんの力を借りながら、少しでも伝わる会誌を発行できるようがんばりますのでよろしくお願い致します。年明けには新しい家族を迎える予定です。仕事関係はもちろん、女性特有の特集も皆さんに提供できればと考えています。



西村和恵（北海道支部）

今回の編集集中、妊娠以外の病気で初めて入院し、自宅療養しながら編集作業をいたしました。健康が一番大事だということを実感したので、ストレスを退治する方法を見つけたいです。



栗田有紀子（東日本支部）

昨年入会し、イベントや総会に参加するのは今年がはじめてでしたが、会の皆さんの力強さや温かさを感じる一年となりました。2019年は東日本支部が総会担当なので忙しくなるとは思いますが、そこは女性の底力で楽しく乗り切っていきたいです。



岡本茉莉（中部支部）

転職後、1年を迎えようとしています。会社も「輪」の編集委員も新入りでありながら、周りの方々のご支援により、なんとか今年を終えられそうです。来年は、慣れてご恩を返せるよう精進していきたいと思います。



菅 直子（西日本支部）

今回は、総会のコーナーを担当させていただきました。総会のコーナー担当だったのですが、私自身は所用で総会に参加できず、残念でした。子どもが6歳と1歳と小さいので、なかなか会の行事にも参加できないのですが、子育てが落ち着いたら、いろいろ参加していこうと思っています。

「輪」への投稿・ご意見は「輪」編集委員へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は事務局まで、お願いします。

「輪」編集委員：rin@womencivilengineers.com

事務局：infoswce@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員】

藤代祥子（編集長）

西村和恵（北海道）

栗田有紀子（東日本）

岡本茉莉（中部）

菅 直子（西日本）

【事務局】

佐藤亜紀子（事務局長）

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷三丁目1番9号矢沢ビル4階

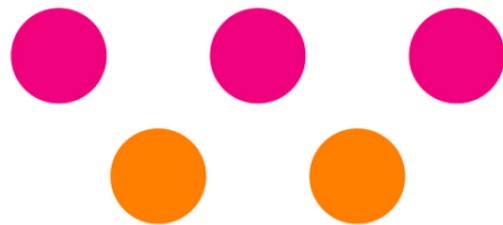
TEL 050-3738-4975

<http://www.womencivilengineers.com>

「輪」2018年度 秋号（第64号）

2018年 12月 31日発行

一般社団法人 土木技術者女性の会
The Society of Women Civil Engineers



The Society of
Women Civil Engineers

一般社団法人 土木技術者女性の会
「輪」 2018 年度 秋号(第 64 号)